

2024 年度
事業報告

公益財団法人日本ナショナルトラスト

目次

I 現況	1
1. 事業	1
2. 役員	1
3. 評議員	2
4. 事務局	2
5. 事業資金	2
II 理事会・評議員会	3
1. 理事会	3
2. 評議員会	3
III 事業実施の概要	5
1. 調査事業	5
2. 保護事業	5
3. 支援事業	12
4. 普及事業	14
5. ネットワーク事業	19
6. 団体交流事業	19
7. その他	21
IV 登記事項、届出・報告・申請事項	21
1. 登記事項	21
2. 届出・報告・申請事項	21
参考 アドバイザー名簿、顧問名簿および観光資源専門委員名簿	23

I 現況

1. 事業

定款に掲げる事業は、次のとおりである。

- (1) 国民的財産として後世に継承するに足る観光資源の認定
- (2) 前号により認定された観光資源(以下「保護対象」という。)の取得および管理運営
- (3) 観光資源に関する保護活動への支援
- (4) 観光資源に関する保護思想および知識の普及向上
- (5) 観光資源に関する学術調査研究並びに情報の収集および提供
- (6) 政府および関係機関への観光資源の保護に関する建議又は陳情
- (7) この法人の健全な発展を図るために必要な関連事業の経営
- (8) その他目的を達成するために必要な事業

2. 役員

(1) 2025年3月31日現在の役員

会 長 (代表理事)	安富 正文	東京地下鉄(株)顧問
副会長 (代表理事)	銭谷 眞美	(公財)新国立劇場運営財団理事長
理事長 (業務執行理事)	福本 啓二	常勤
副理事長 (業務執行理事)	中村 仁	(公財)日本ナショナルトラスト関西支部長
理 事	蝦名 邦晴	(一社)日本旅行業協会理事長
理 事	大路 洋司	西日本旅客鉄道(株)理事 東京本部長
理 事	苅谷 勇雅	元・文化庁文化財鑑査官
理 事	最明 仁	(公社)日本観光振興協会理事長
理 事	榊原 篤	東海旅客鉄道(株)執行役員 営業本部長
理 事	柴崎 信三	元・日本経済新聞社論説委員
理 事	鈴木 雅和	筑波大学 芸術系 名誉教授
理 事	田地 朗	東京地下鉄(株)執行役員 総務部長
理 事	中川 晴美	東日本旅客鉄道(株)常務取締役
理 事	羽尾 一郎	(一社)日本民営鉄道協会理事長
理 事	降幡 賢一	日本エッセイスト・クラブ事務局長(元・朝日新聞社編集委員)
理 事	増原 尚二	(公財)日本交通公社理事・総務部長
理 事	廻 洋子	敬愛大学特任教授

理 事	森 まゆみ	作家
-----	-------	----

(以上理事 18 名)

監 事	今村 正	税理士
監 事	佐藤 栄治	(公財)鉄道弘済会専務理事

(以上監事 2 名)

3. 評議員

(1) 2025 年 3 月 31 日現在の評議員

評議員	今村 啓一	前・(公財)NHK交響楽団理事長
評議員	大西 孝夫	元・(一財)休暇村協会理事長
評議員	蒲生 篤実	(独)国際観光振興機構理事長
評議員	黒野 匡彦	元・成田国際空港(株)代表取締役社長
評議員	高橋 広行	(株)JTB代表取締役会長
評議員	堤 哲	元・毎日新聞編集委員
評議員	村尾 信尚	関西学院大学教授
評議員	森地 茂	政策研究大学院大学名誉教授

(以上評議員 8 名)

4. 事務局

2025 年 3 月 31 日現在の職員 5 名

5. 事業資金

本財団の事業資金は、事業賛助団体からの寄付金並びに個人および団体からの会費等による。

Ⅱ 理事会・評議員会

1. 理事会

(1) 第1回理事会 2024年5月27日 午後2時より3時30分

- 開催場所 東京都千代田区麹町4-5 海事センタービル7階会議室
- 決議事項 2023年度事業報告及び決算報告、2024年度定時評議員会提出議題、顧問の選任、ヘリテージセンター「飛騨の匠文化館」の財産譲渡契約の締結
- 報告事項 代表理事・業務執行理事の職務の執行状況の報告、2024年度第2回理事会の開催
- 出席等 決議に必要な出席理事の数10名、出席13名、欠席5名。監事出席2名。

(2) 第2回理事会 2024年6月17日

- 開催方法 決議の省略の方法
- 決議事項 代表理事（会長及び副会長）の選定、業務執行理事（理事長及び副理事長）の選定
- 出席等 提案書に対し、理事18名全員の書面による同意の意思表示および監事2名全員からの書面による異議がないことの意味表示を得た日をもって、理事会の決議があったものとみなされた。

(3) 第3回理事会 2025年3月7日 午前10時より11時30分

- 開催場所 東京都千代田区麹町4-5 海事センタービル4階会議室
- 決議事項 2025年度事業計画、2025年度収支予算、2025年度補助金等の交付申請、特定資産の取崩、顧問の選任、評議員会の招集
- 報告事項 代表理事・業務執行理事の職務の執行状況の報告、支援事業「地域遺産支援プログラム」支援対象の選定、2025年度第1回理事会の開催
- 出席等 決議に必要な出席理事の数10名、出席16名、欠席2名。監事出席2名。

2. 評議員会

(1) 定時評議員会 2024年6月17日 午後3時30分～5時

- 開催場所 東京都千代田区麹町4-5 海事センタービル4階会議室
- 決議事項 2023年度事業報告及び決算報告、評議員の選任、理事の選任、監事の選任、ヘリテージセンター「飛騨の匠文化館」の譲渡

報告事項	2024 年度事業計画、2024 年度収支予算、2023 年度第 2 回・第 3 回 及び 2024 年度第 1 回理事会の決議事項
出席等	決議に必要な出席評議員の数 4 名、出席 8 名。代表理事出席 1 名、 監事出席 2 名。

Ⅲ 事業実施の概要

(公財)日本ナショナルトラスト(以下、「JNT」)にとって、本年度は「地域遺産支援プログラム」の第一回の公募を行うなど、新たな事業の柱となる「支援事業」を本格的に始動する記念すべき年となった。放送作家のみならず多角的に活躍されている小山薫堂 JNT 顧問により愛称「トラスト・エール」と名付けられた本プログラムは、各方面から多くの関心を集めた。また、同事業推進のために、当財団で初となるクラウドファンディングを実施し、全国各地の皆さまからご協力をいただいた。

各保護資産においては、季節の行事や特別公開等を積極的に開催するとともに、SNS を活用して情報発信に努めた。さらに、各保護資産の価値を高め、活用を促進するために保存活用計画の更新作業や修理方針の策定を進めた。さらに、開館から 35 年を迎えたヘリテージセンター「飛騨の匠文化館」を飛騨市に譲渡し、今後の地域活性化に大きく寄与することとなった。本年度も貴重な文化財や美しい自然景観を次の世代につなぐべく着実に事業を展開するとともに確固たる財団基盤の強化に向けて積極的に取り組んだ。

1. 調査事業

(1) 観光資源保護調査フォローアップ

1973 年度に観光資源保護調査を実施した香川県東かがわ市の猪熊邸を対象に、フォローアップ調査を実施した。所有者に現在の保存、活用状況についてヒアリングを行い、JNT 保護資産の活用手法や助成金等について情報提供を行った。

(2) その他フォローアップ

2019 年度から 2021 年度の 3 か年で輪島市から文化財保存活用地域計画策定業務を受託し、2022 年度(2022 年 7 月)に策定した計画が国の認定を得た。そのような中で、2024 年 1 月 1 日に能登半島地震が発災した。当財団は本年度 11 月に安藤邦廣・筑波大学名誉教授と協力し、計画で定めた文化財保存活用区域の一部の地区のほか、茅葺民家の残る「三井地区」、「白米の千枚田」を対象に、まちづくり活動を実施する地域住民や、輪島市教育委員会文化課にヒアリング調査を行った。2024 年 9 月の豪雨災害によって甚大な被害を受けた町野地区、過去に JNT が受託調査を実施した国の重要文化的景観「大沢・上大沢の間垣集落」については、ヒアリング調査を行った後、3 月に追加調査を実施した。

2. 保護事業

(1) 文化財取得保護計画に基づく保護事業

① 白川郷合掌造民家の修復と管理運営 (岐阜県白川村)

旧松井家の管理を引き受けている白川ボックスが、7月12日に総会を開催した。また、9月5日に、理事長と職員が出席して、白川郷合掌文化館および旧寺口家管理運営委員会を開催した。委員会では、前年度の事業報告と本年度の事業計画について諮り、異議なく承認された。また、10月13日～15日に白川村荻町祭礼(どぶろく祭り)が開催された。当日は職員が参加し、地元との交流を深めた。

《管理運営委員会の構成》

大田忠広・JNT 白川ボックス代表、野谷信二・白川郷荻町集落の自然環境を守る会会長、和田茂・JNT 白川ボックス事務局、川田裕・白川村老人クラブ長生会会長、宮丸和之・白川村教育委員会教育長、安藤邦廣・筑波大学名誉教授、JNT 他

* 旧松井家 貸館 4 件

* 旧寺口家 貸館 1 件

②動態保存車両(トラストトレイン)の運行と修繕 (静岡県大井川鐵道)

本年度は全5回のトラストトレインの運行を実施し、延べ63人のボランティアが参加した。そのうち10月5日は親子ボランティアを実施し、親子を含む20名が参加した。当日は車両区見学、電車の車掌体験、アナウンス体験、SL機関室特別乗車、クイズ、駅舎見学などの豊富な体験プログラムを実施し、非常に好評であった。また、毎年冬に実施するボランティア活動(客車の清掃)を3月に実施した。当日はスハフの車内清掃だけでなく、C12の足回りの清掃を実施することができ、ボランティアの満足度も高く充実した活動となった。さらに本年度は、一般の方との交流などの新しい活動を実施した。9月に開催した交流会は7名が参加し、トラストトレインボランティアがオーストラリアやノルウェーの保存鉄道等について紹介し、鉄道保存の難しさなど幅広い話題で盛り上がった。また2月15日には、「鉄道写真家 櫻井寛さんに聞く『世界一の鉄道王国スイス』—講演会&参加者座談会—」を開催した。櫻井寛氏によるスイスの鉄道に関する講演のほか、JNT 職員によるトラストトレインの活動紹介、大井川鐵道(株)社長の鳥塚亮氏からは「大井川鐵道株式会社におけるSL動態保存の取り組みについて」というテーマでお話しいただくなど豊富なプログラムであった。告知にあたっては、大井川鐵道(株)のほか、天竜浜名湖鐵道10駅でチラシを設置した効果もあり、当日は32名と多くの方が参加した。参加者は櫻井氏の話に耳を傾け、積極的に意見交換を行った。C12の動態化やトラストトレインの運行については、8月6日に、本年度大井川鐵道(株)の社長に就任した鳥塚亮氏とJNT 理事長および職員が面談し、連携の強化と当該事項の推進を要請した。また3月に大井川鐵道(株)と開催した運営会議では、本年度の活動報告、来年度の活動計画等を議題として協議を行った。来年度の活動計画について、トラストトレイン客車3両とも車検切れのため運行ボランティアの実施を見送る予定であったが、調整の結果4月19日のみ

実施することが決定した。10 月以降の活動については、大井川鐵道(株)と引き続き調整を行っていく。

* 運行日活動 4 月 13 日 (7 名)、10 月 5 日 (20 名)、11 月 9 日 (8 名)、12 月 7 日 (12 名)、2 月 15 日 (16 名)

③名勝旧大乘院庭園の管理事業 (奈良県奈良市)

6 月 25 日に保護管理委員会を開催し、副理事長(関西支部長)と職員が出席して、前年度の事業報告および本年度事業計画についての審議を行った。また、同日に管理協議会を開催し、大乘院庭園文化館の運営について具体的な協議を行った。維持管理については、例年実施している作業に加えて、良好な景観維持ならびに来園者の安全確保のための追加作業として、クロマツ、イロハモミジ、ヒイラギモクセイ等の剪定を行った。活用に関しては、観月の夕べを例年通り開催したほか、なら燈花会、関西文化の日のイベントに参画することが出来た。ロケーション撮影の利用も引き続き好調であった。

《保護管理委員会の構成》

尼崎博正・京都芸術大学名誉教授(JNT 観光資源専門委員)、本中眞・奈良文化財研究所所長(JNT 観光資源専門委員)、奈良県、奈良市、西日本旅客鉄道(株)、JNT 他

* 入園者数 1,637 名(公開日数 300 日)、ロケーション利用等 45 件

* 奈良県および奈良市補助事業

④東京都指定名勝旧安田楠雄邸庭園の管理事業(東京都文京区)

6 月 6 日に保護管理委員会を開催し、理事長と職員が出席して、前年度の事業報告を行った。本年度の事業計画については、保存活用計画の更新などについて諮り、異議なく承認された。保存活用計画の更新については、保存活用計画更新検討ワーキングを開催し、活用計画、庭園の復元方針、建物の保存管理計画、旧安田楠雄邸庭園の価値等について検討した。関連して、12 月 14 日に旧安田楠雄邸庭園の活用についてボランティア(14 名)との意見交換を行った。建物の保護管理については、10 月～11 月に、不具合が生じていた雨戸の全面的な修理を実施した。管理活用の面では、定例の活用 WG 会議を半年に 1 回程度開催した。特定非営利活動法人文京歴史的建物の活用を考える会(通称: たてもの応援団)や専門家と協議しつつ、五節句行事等の実施や貸館等による活用に努めた。また本年度は、元旦に被災した七尾市を応援するため、旧安田楠雄邸庭園で開催された「能登を応援! 能登・七尾一本杉通り 花嫁のれん展」に JNT が協力した(主催: 特定非営利活動法人文京歴史的建物の活用を考える会、一本杉通り振興会)。花嫁のれんのほか能登半島地震被災状況のパネル展示を行い、11 月 2 日～10 日の期間で 1413 名の入館があった。また NHK の取材を受け、11 月 7 日

の「午後LIVE ニュースーン」で放映されるなど大きな反響があった。3月30日には夜間にしだれ桜をライトアップし公開したところ、2時間で105名の来館があった。そのほか、10月1日～11月30日の期間で「文京区×QuizKnock クイズラリー～文の京をクイズ旅～」(主催：文京区、一般社団法人文京区観光協会)が開催された。参加者は、歴史と文化のまち文京区の観光スポットを巡ってクイズに挑戦し、ポイントを集めることで、様々な景品に応募できるという企画である。旧安田楠雄邸庭園はクイズ設置スポットとして協力した。また、10月31日に都立小石川後楽園 涵徳亭で開催された第11回東京の日本庭園おもてなし協議会(主催：東京都建設局公園緑地部)に職員が出席し、都内の文化財庭園の担当者と意見交換を行った。そのほか東京都が実施する東京文化財ウィークや東京いい庭キャンペーンにも参加し、自治体による文化的活動に協力した。また、入館者ならびに利用者の利便性向上のため、施設内にWi-Fiを設置した。

《保護管理委員会の構成》

井手久登・東京大学名誉教授(JNT 観光資源専門委員)、樋渡達也・前文化財指定庭園保護協議会会長、河東義之・小山工業高等専門学校名誉教授(JNT 観光資源専門委員)、内田青蔵・神奈川大学特任教授、服部勉・東京農業大学教授、JNT 他

* 東京都および文京区補助事業

* 一般公開 6,894 名(公開日数 106 日)、貸館・団体見学・映像・写真撮影等 198 件

⑤京都市指定文化財駒井家住宅の管理事業 (京都府京都市)

4月18日に保護管理委員会を開催し、副理事長(関西支部長)と職員が出席した。本年度の事業計画は、敷地西側(疏水沿い)の樹木の剪定、修理方針策定、主屋および離れの構造評価、離れの修理に係る基本計画策定等について審議し、異議なく承認された。同様に前年度の事業報告についても承認が得られた。建物および庭園の保護管理については、前述のとおり駒井家住宅全体の修理方針の策定その他、老朽化が進んでいる離れの活用について検討を進めながら構造等の調査を実施し、修理の基本計画を策定した。また、2月に離れの老朽化により窓ガラスが落下し、応急処置を行った。また7月に駒井家の西側(疏水側)の樹木の剪定を行い、通りからの駒井家住宅の視認性が高まった。管理活用の面では、定例のWG会議を3回開催した。昨年同様、京都市観光協会等と連携し東華菜館・駒井家住宅・旧三井家下鴨別邸による3館共通見学会「京都に遺る近代建築 和洋の美」を実施したほか、「チャリティージャズコンサート with 蓑輪裕之トリオ」、「京都モダン建築祭」(駒井家住宅&山口書店ツアー)、春の特別公開(連続公開)など、積極的にイベントを開催して活用に努めた。また、西川完途氏(京都大学教授/保護管理委員)と覚書を締結し、氏が代表する駒井卓先生資料アーカイブプロジェクトに協力した。このプロジェクトは、立命館大学アート・リサーチセンターのデータベースシステムを活用

し、駒井家住宅にある駒井卓の資料をデジタルアーカイブ化し、プロジェクトの HP に掲載するというものであり、駒井卓の資料提供等について協力した。3 月 8 日（土）の公開終了後にボランティア講習会を開催し、JNT から運営体制（保護管理委員会・ワーキング会議など）等について説明を行い、今後予定している工事等について進捗を共有した（8 名のボランティアが参加）。そのほか、4 月 25 日に京都芸術大学の造園実習が行われ、庭園の剪定と駒井家住宅の見学を行った（参加者 13 名）。

《保護管理委員会の構成》

山形政昭・大阪芸術大学名誉教授、尼崎博正・京都芸術大学名誉教授（JNT 観光資源専門委員）、石田忠範・石田忠範建築研究所主宰、西川完途・京都大学大学院教授、三村浩史・京都大学名誉教授（元 JNT 観光資源専門委員）、吉田友彦・立命館大学教授、JNT 他

* 京都市補助事業

* 一般公開 1,344 名（公開日数 71 日）、貸館・団体見学・映像・写真撮影等 39 件

⑥文化財取得保護計画募金計画の継続

各保護資産の適切な維持管理および利活用の促進を目指した修復や価値の向上等を実施するため、文化財取得保護計画に沿って、経済界をはじめ関係諸団体、会員などに対し広く呼びかけを行い、募金活動を推進した。

（2）その他の保護事業

①天心遺跡記念公園および天心墓地の保護管理（茨城県北茨城市）

7 月 16 日に保護管理委員会を開催し、前年度の事業報告と本年度の事業計画について承認が得られた。維持管理については、例年通り北茨城市から維持管理のための補助金交付を受け、年間の維持管理業務を（公社）北茨城市シルバー人材センターに委託した。天心遺跡記念公園においては、定期的な除草や清掃作業、天心墓地では、除草作業と月 2 回の点検および供花を行った。

《保護管理委員会の構成》

豊田稔・岡倉天心偉績顕彰会会長、小泉晋弥・茨城県立天心記念五浦美術館館長、片口直樹・茨城大学五浦美術文化研究所所長、JNT 他

* 北茨城市補助事業

②ED70 形 1 号交流電気機関車の保護管理（滋賀県長浜市）

西日本旅客鉄道（株）から寄贈された ED70 形 1 号交流電気機関車について、長浜市民やボランティアの協力を得て保護管理を行い、広く一般に公開した。

③巻機山の景観保全（新潟県南魚沼市）

東京農業大学と連携した植生復元のためのボランティア活動として、池塘のイグサ類の刈り取りによる水面の景観復元、高山植物の種子採取・播種などの作業及び登山者が歩きやすくなるよう更新された階段の付け替え前に旧階段から外れて踏み荒らされていた箇所緑化ネットを設置し、植生復元を実施した。

活動実施日：8月25日～27日

参加者数：12名

(3)ヘリテイジセンターの管理運営

①葛城の道歴史文化館の管理運営（奈良県御所市）

当文化館には葛城の道散策マップや街道の神社・仏閣に関する資料、伝統行事の写真などが展示されており、葛城古道を散策するための情報拠点となっている。また、館内には休憩所と集会所を備え、住民と来訪者が交流し、歴史を活かしたまちづくりや歴史環境の保全について考える場としても活用されている。

（入館者数 6,164 名）

②飛驒の匠文化館の管理運営（岐阜県飛驒市）

市内の小学生や、岐阜県、愛知県、大阪府などから学生が見学に訪れた。年間の入館者数に占めるインバウンドの割合が約 25%となり、過去最多となった。また、外部への出展も行った。高山市で開催された「匠の国ぎふ」の技を支える道具展に道具の一部を出展した他、飛驒市の友好都市である台湾新港郷で、交流 30 周年を記念したイベント「港動祭」が開催され、式典会場に「飛驒の匠」ブースを設けた。来場者が組木や継手等に直接触れることが出来る機会となった。

飛驒市からこの施設の移管の申し入れを受けた件について、3月19日に財産無償譲渡契約を締結した。同月、飛驒の匠文化館基本構想・基本計画および財産無償譲渡承認申請書が提出され、これを承認し、3月末に飛驒の匠文化館を飛驒市に引き渡した。

（入館者数 7,637 名）

③白川郷合掌文化館(旧松井家)の管理運営（岐阜県白川村）

白川村在住の JNT 会員によって組織されている白川ボックスと管理業務委託契約を締結しており、日常点検や清掃、軽微な修理、屋根のメンテナンス等を実施した。7月12日には白川ボックス総会を開催し、公開に向けた清掃活動を実施した。白川ボックスの協力により8月に夏季開館（6日間）を実施し、835名が白川郷合掌文化館を見学した。

(入館者数 835 名)

④名勝大乗院庭園文化館の管理運営 (奈良県奈良市)

本年度も「観月の夕べ」や「ならまち近隣燈花会」、「奈良大文字送り火鑑賞」の開催や「珠光茶会」の受入れを行った。館内では、当文化館主催の「二十四節気書画展」が開催されたほか、杉山華頓書道美術館の協力による「高木厚人パネル展」、入江泰吉記念写真美術館ミニ展示「入江泰吉の大和路」、庭園や奈良ホテルをテーマとした講座などが開催された。そのほか、10月24日に管理運営委員会が開催され、副理事長(関西支部長)と職員が出席した。

(入館者数 31,126 名)

⑤長浜鉄道文化館の管理運営 (滋賀県長浜市)

年間を通じて長浜の鉄道史を紹介するなど、歴史を活かしたまちづくりの拠点として役割を発揮した。企画展「絵本、図鑑に見た鉄道の夢と記憶展～関田克孝コレクション～」(7月13日～9月29日)では、鉄道に関するおもちゃや絵本を多数展示した。「東海道新幹線 60 周年記念 みんなの新幹線 2024」(10月5日～12月28日)では、東海道新幹線の計画段階の貴重な資料や開業当時の資料等を展示した。迫力のある新幹線模型なども展示し、好評を得た。

(入館者数 50,304 名) * 長浜スクエアとしての入館者数

⑥琴引浜鳴き砂文化館の管理運営 (京都府京丹後市)

本年度も写真展や貝がら手作り体験等多様な催しを実施した。春夏秋冬の自然の風景を和紙で表現した作品展「峰山ちぎり絵サークル展」(4月22日～5月19日)や、「写真展 フォト丹後」(2月3日～3月2日)が開催されたほか、修学旅行や社会見学を12件受け入れた。また、京丹後市内全小学校6年生を対象とした「大地の学習」で16校が来館し、鳴き砂の鳴く仕組みや漂着物・岩石の種類や性質などを学んだ。また、開館して23年が経ち、当文化館に求められる役割も幅広くなったことを受け、山陰海岸ジオパークや生物多様性等の情報を充実させるための展示リニューアルを行った。展示リニューアルは琴引浜の鳴り砂を守る会が主体となり、3月に完了した。

(入館者数 8,713 名)

⑦北陸線電化記念館の管理運営 (滋賀県長浜市)

当記念館では D51 形蒸気機関車と ED70 形 1 号機交流電気機関車を通年公開するとともに、交流電化の歴史資料等のパネルを展示した。2023 年度、(一財)日本宝くじ協会から 200 万円の助成を受けて、映像投影設備の設置工事を完了した。これにより来館者は、ED70 の窓にプロジェクションマッピングで投影した風景を眺めること

が出来、運転室に入ると実際に乗車しているような体験ができるようになった。6月22日に、北陸線電化記念館建設20周年を記念して、「北陸線電化記念館20周年記念鉄道スクエアイベント～夏～」が開催され、ED70形1号の展示がお披露目された。当財団からは副理事長（関西支部長）と職員が出席し、関係者へ挨拶等を行った。

また、初めての試みとして夜間開館を行った。鉄道スクエアナイトミュージアム（9月13日～9月29日の金・土・日）やウィンターナイトミュージアム（1月25日～2月24日の土・日・祝）を開催し、D51とED70、旧長浜駅舎のライトアップを行ったほか、ナイトミュージアムツアー等を実施した。

（入館者数 50,304 名）＊長浜スクエアとしての入館者

⑧村上歴史文化館の管理運営（新潟県村上市）

当文化館は、歴史を活かしたまちづくりの拠点として役割を発揮し、本年度は「村上市の弥生時代」（11月30日～2月24日）が開催された。また、恒例となった「城下町村上に伝わるひな人形展」（3月1日～4月6日）は第41回を迎えた。享保年間から昭和に至る時代の雛人形が展示されたほか、隣接する村上市郷土資料館や若林家住宅でもひな人形が展示され、1,047人の入館があった。

（入館者数 9,456 名）

⑨四国鉄道文化館の管理運営（愛媛県西条市）

当文化館（北館と南館）は、十河信二記念館、観光交流センターとともに形成される「鉄道歴史パーク in SAIJO」として、地域の賑わいの拠点となっている。毎月1度開催している「おそうじ&勉強会」では、月ごとに扱う鉄道車両を変え、様々な体験、発見が出来る工夫を行っている。計4回開催したミニSL・ミニ新幹線乗車会（合計約2400名参加）、SLや新幹線に関する工作教室「てつぶん工作教室」を開催し、多様な企画作りで来館のきっかけを提供している。「伊予西条鉄道フェスタ2024」（11月30日、12月1日）では特別車両の展示や鉄道模型走行会の他、駅前マルシェも開催された。2日間の参加者は2,321名であった。

（入館者数 46,160 名）

3. 支援事業

支援事業の推進に関し、相互に連携・協力するため、認定特定非営利活動法人サービスグラント、特定非営利活動法人全国町並み保存連盟とそれぞれ支援事業連携協定を締結した。その他事業の実施状況については次の通り。

（1）地域遺産支援事業（地域遺産支援プログラム＜トラスト・エール＞）

- ・放送作家の小山薫堂氏（JNT 顧問）に、事業の愛称を「トラスト・エール」とつけていただいた。あわせて、「トラスト・エール」の名称について商標登録を行った。
- ・地域遺産支援プログラムの事業資金の確保のため、JNT 初の試みとして 2024 年 5 月 22 日～7 月 17 日の期間でクラウドファンディングを実施した。支援者を集めるため、7 月 14 日にクラウドファンディング連携オンラインイベント「地域遺産トーク～あなたにとって地域遺産とは？～」を開催した。各地で地域遺産の保存・活用に関わっている実践者から、地域活性化につなげる仕組みづくりの事例をご紹介いただくという内容であり、約 70 名の参加があった。最終的に、153 名の方から総額 352 万 5 千円の寄付があった。また関係団体の協力を得て広報を行い、（公社）日本観光振興協会『観光とまちづくり』、交通新聞、観光経済新聞、旅行新聞等に地域遺産支援プログラムの記事が掲載された。
- ・7 月 1 日に地域遺産支援プログラムの公募要領を公開し、事前エントリーの受付を開始した（～8 月 31 日まで）。8 団体からエントリーがあった。その後、9 月 1 日に申請受付を開始し、14 団体から申込みがあった（11 月 10 日締切り）。
- ・9 月 29 日、9 月 30 日は旧安田楠雄邸庭園、10 月 6 日、10 月 7 日は駒井家住宅を会場に、地域遺産支援プログラムの事業説明会および個別相談、座談会を開催した。事業説明会は両会場で延べ 28 名の参加があり、個別相談には 12 団体の参加があった。座談会は、旧安田楠雄邸庭園は「歴史的建造物 保存修理&維持管理への一步！～旧安田楠雄邸庭園担当者が語る修理やお金にまつわる話～」、駒井家住宅は「文化財住宅で考えるユニークベニュー～建物の魅力を引き出す活用～」をテーマにした。それぞれ建物見学会のほか、JNT 担当職員が文化財保存活用のノウハウや工夫について話題提供をしながら参加者と意見交換を行った。
- ・支援事業委員会を開催し、11 月 28 日に予備選考、1 月 31 日に本選考を行った。その結果、2025 年度に支援事業を実施する地域として以下の 4 者を決定した。

<採択申請者>

たねまき（A 型）～活動のための基盤づくり～

■滝上ふるさと研究会（北海道紋別郡滝上町）

対象とする地域遺産：千野家ハッカ釜

テーマ：ハッカ釜の保存の可能性を探り、ハッカ文化を活用した取り組みを模索する。

■門脇家住宅等保存協力会（鳥取県西伯郡大山町所子集落）

※重要伝統的建造物群保存地区

対象とする地域遺産：門脇家住宅 ※国の重要文化財

テーマ：地域を巻き込んだ重要文化財の持続可能な活用方法の構築

ひろがり（B 型）～地域遺産保全の仕組みづくり～

■NP0 法人“矢中の杜”の守り人（茨城県つくば市北条地区）

対象とする地域遺産：旧矢中家住宅 ※国の重要文化財

テーマ：「文化と防災」でつながる地域遺産保全体制の構築

■東かがわ市引田 町家マッチングプロジェクト（香川県東かがわ市引田地区）

対象とする地域遺産：引田地区の町家（空き家等）

テーマ：引田「町家マッチングプロジェクト」事業

（2）その他支援事業（相談窓口事業）

- ・前年度開設した相談窓口に、16 件の相談があった。建物を中心とした地域遺産の活用方法や専門家の紹介など多様な相談が寄せられた。

（3）その他

- ・（一財）ハウジングアンドコミュニティ財団の助成事業に職員が選考委員として協力し、7 月 20 日に京都で開催された第 7 回住まい活動助成事業研究交流会と、8 月 31 日に東京で開催された成果報告会&まちづくり NP0 交流の集い、および 11 月 16 日開催の住まいとコミュニティづくり活動セミナーに職員が出席した。
- ・「われらが紡ぐ白川郷かややねプロジェクト～秋の一斉茅刈り～」
 - （一財）世界遺産白川郷合掌造り保存財団からの受託で、白川村の自然環境保全に取り組んでいる。8 月 5 日は、参加者の交流等を行うかややね会議をオンラインで開催した。白川村役場職員の近況報告のほか、ゲストトーク「茅葺きの近現代史～茨城県旧八郷町の取り組みを中心に～」を開催し、35 名の参加があった。また 9 月 18 日には、新規参加者確保のために、茅刈りイベント説明会をオンラインで開催し、7 名の参加があった。11 月 2 日、3 日に恒例の秋の一斉茅刈りを実施する予定であったが、雨だったため予定を変更し、茅保管作業、茅ほうきづくり、交流会を行った（30 名が参加）。翌日は参加者で実際に白川郷合掌文化館のオダレ（雪囲い）づくりを体験し、白川村民との交流を楽しみながら、白川村の茅文化への理解を深めた。

4. 普及事業

（1）会員事業

①見学会・催し物等の開催

ア）トラストトレイン

- ・トラストトレイン運行日およびボランティア参加者数
4 月 13 日、10 月 5 日、11 月 9 日、12 月 7 日、2 月 15 日（延べ 63 名が参加）
※10 月 5 日は親子ボランティア（20 名が参加）
- ・その他の活動

9月7日…トラストトレイン交流会「海外の鉄道・保存鉄道について知ろう！

みんなで鉄道について語ろう！」

2月15日…「鉄道写真家 櫻井寛さんに聞く『世界一の鉄道王国スイス』

—講演会&参加者座談会—」

3月15日…C12 および客車の清掃

イ)旧安田楠雄邸庭園

・主催イベント

4月6日・・・・・・・・・・・・・ 防空壕公開

4月17日、20日・・・・・・・・・・・・・ 蓄音機の音色

5月1日～5日・・・・・・・・・・・・・ 端午の節句 ※連続公開

6月の公開日・・・・・・・・・・・・・ 昭和の台所特別公開

6月15日、19日・・・・・・・・・・・・・ 蓄音機の音色

7月3日、6日・・・・・・・・・・・・・ 七夕飾り

8月7日・・・・・・・・・・・・・ 防空壕公開

9月18日、21日・・・・・・・・・・・・・ 蓄音機の音色

10月6日・・・・・・・・・・・・・ 新内節で語る名作

10月27日・・・・・・・・・・・・・ ひとり語り

～フランスの作曲家 フォーレの調べにのせて～

「押絵と旅する男」

10月9日、12日、16日、19日・・・・・・・・・・・・・ 重陽の節句

(「菊のきせ綿」飾りや展示など)

12月11日、14日・・・・・・・・・・・・・ 蓄音機の音色

1月8日～29日の公開日・・・・・・・・・・・・・ 人日の節句(お正月の玩具展示)

2月1日～22日の公開日・・・・・・・・・・・・・ 冬の暮らし展

(生活道具等の展示)

2月19日、22日・・・・・・・・・・・・・ 蓄音機の音色

2月26日～3月2日、5日、8日・・・・・・・・・・・・・ 上巳の節句 ※連続公開

3月30日・・・・・・・・・・・・・ しだれ桜と琵琶の音、夜間公開

・その他イベント

11月2日～10日・・・・・・・・・・・・・ 東京文化財ウィーク企画事業

「能登を応援！能登・七尾一本杉通り 花嫁のれん展」

※連続公開(料金の一部は能登半島地震の被災地に寄付)

11月23日～12月7日の公開日・・・・・・・・・・・・・ 秋の東京いい庭キャンペーン

(園路開放)

3月22日、26日、29日、(4月2日)・・・・・・・・・・・・・ 春の東京いい庭キャンペーン

(園路開放) ※3月29日は雨で中止

ウ) 駒井家住宅

・主催イベント

(3月29日～31日)、4月5日～7日・・・春の連続公開

4月～11月の期間で不定期開催・・・駒井家ヨガ

※参加費はロールスクリーン購入費として寄付

5月29日、6月19日・・・・・・・・・・3館共通見学会

「京都に遺る近代建築 和洋の美」

(東華菜館、駒井家住宅、旧三井家下鴨別邸のツアー)

11月3日・・・・・・・・・・チャリティージャズコンサート with 菱輪裕之トリオ

・その他イベント

11月4日・・・・・・・・・・京都モダン建築祭参加

(駒井家住宅&山口書店ツアー)

主催：京都モダン建築祭実行委員会

(京都市、公益社団法人京都市観光協会ほか)

② 会員活動の支援

会員による以下の自主的な活動に対して、様々な支援を行った。

ア) 地域活動

白川ボックス／ヘリテージセンター白川郷合掌文化館の開館・建物維持管理

4月28日・・・・・・・・・・雪囲いはずし

5月18日・・・・・・・・・・棟つつみ

7月12日・・・・・・・・・・清掃、総会

8月・・・・・・・・・・夏季開館

11月3日・・・・・・・・・・雪囲い

イ) サークル活動

民家・町並みサークル

情報発信を中心に活動を継続している。

9月7日・・・・・・・・・・UR まちとくらのミュージアム見学会

11月24日・・・・・・・・・・つくば見学会 (JNT 共催)

③ 会員増加キャンペーンの実施

関連団体および企業の協力により、入会申込書の配布や設置等を行い、入会促進に努めた。また、期間限定で以下のキャンペーン等を行った。

ア) 初年度会費無料キャンペーン

1 月 1 日から 3 月 31 日までに入会した方を対象として初年度会費および入会金を無料にするキャンペーンを実施した。

イ) プラスワンキャンペーン

4 月 1 日から 5 月 31 日まで会員の紹介者に対して入会金無料および会報のバックナンバー無料などの特典を付与したキャンペーンを行い、積極的に PR を行った。

(2) 広報事業

① 会報「日本ナショナルトラスト報」の発行・配布(隔月刊)

年間 6 回の発行で内容の充実した会報作りを行っている。会員へ配布するとともに、事業協力者へも広く頒布し、ナショナル・トラスト活動の普及に努めた。また本年度は、今後の会報等の JNT 広報活動のあり方を検討するため、会員をはじめとした会報配布者を対象にアンケートを実施し、約 230 件の回答があった(回収率 14%)。会報に掲載された情報の満足度は高く、事業や運営体制などについても熱心な意見が寄せられた。今回のアンケートにより把握した属性やニーズを踏まえ、広報活動の強化につなげていく。

<体裁>B5 16 頁 <発行部数>2,100 部

<通巻>561 号～566 号

561 号(5 月 1 日発行) 特集「『支援事業』本格始動」

562 号(7 月 1 日発行) 特集「今年のしごと」

563 号(9 月 1 日発行) 特集「富山県氷見市で生まれたコミュニティと文化財登録」

564 号(11 月 1 日発行) 特集「伝統と現代がクロスする黒須の町並みを未来へ～埼玉県入間市～」

565 号(1 月 1 日発行) 特集「東京下町・谷中 終わりなき建物と人の物語」

566 号(3 月 1 日発行) 特集「巻機山 山岳の自然をみんなで復元する」

② ウェブサイト、SNS での情報発信

ウェブサイト等を積極的に活用し、会員や JNT に関心のある層への情報発信に努めた。ウェブサイトを随時修正し、またフェイスブックはリアルタイムな発信を心掛け更新に努めた。会員の皆さまと双方向でつながるツールとして好評を得ており、現在、フェイスブックは約 900 人がフォローしている。さらに多様な年代に JNT の情報を届けるため、新たに JNT 公式Instagramおよび公式 X を立上げ

た。フェイスブックやX等を頻繁に更新して（原則平日は毎日更新）JNTのイベント情報などをリアルタイムに配信し、活動への関心を高める取り組みを強化した。また、8月には公式YouTubeチャンネルを開設した。これまでJNTが開催したオンラインイベントは多数の参加があり、今後これらの動画をアーカイブ配信することを検討していく。

③メールマガジンなどの普及宣伝ツールの活用

メールマガジンを月1回の頻度で配信し、JNTや地域の関連情報を掲載するなど内容を改善しつつ、積極的に情報発信を行った。（登録者数 約710名）

④関係団体の広報協力

本年度も地下鉄博物館（東京都江戸川区）にJNTとトラストレインのパンフレットおよびトラストレインの維持修復を呼び掛ける募金箱を設置していただいた。また、JR東日本をはじめとした多くの関係団体・企業の協力を得て、保護資産およびプロジェクトを含め、幅広くJNTの紹介を行っていただいた。駒井家住宅および旧大乘院庭園に関しては、JR西日本や叡山電鉄から継続的に広報協力を得ることができた。

⑤その他

JNTへの広報協力の一環として、観光経済新聞電子版に「能登半島地震から1年輪島市文化財の被災状況に関する現地調査」（会報2025年1月号掲載）の記事が掲載された。

（3）その他普及事業

①他団体主催イベント等の後援等

- ・「第47回全国町並みゼミ東京大会」

主催：特定非営利活動法人全国町並み保存連盟

後援名義期間：承認の日～10月27日

- ・「第15回 柳都新潟・古町花街イベント」

花街保全の具体化を考える その2 ～登録有形文化財制度の活用～

主催：古町花街の会、新潟まち遺産の会

後援名義期間：承認の日～3月16日

- ・ヴォーリズ建築写真展「VORIES TIME」

主催：関西学院大学博物館

協力名義期間：承認の日～7月13日

5. ネットワーク事業

(1) ヴォーリス建築文化全国ネットワーク

6月29日に兵庫県西宮市で総会及び大会が開催され、職員が出席した。

(2) 全国近代化遺産活用連絡協議会

7月24日～26日に愛知県春日井市で総会と大会が開催され、職員が出席した。また、10月1日～11月30日に実施された「近代化遺産全国一斉公開2024」に駒井家住宅が参加した（金土曜日の公開日）。

(3) 一般社団法人日本茅葺き文化協会

5月25日～26日に新潟県佐渡市で総会およびフォーラムが開催され、職員が出席した。

(4) 全国鳴砂ネットワーク

9月4日に役員会、9月20日に総会が開催され、事務局長と職員がオンラインで出席した。11月17日に秋田県仙北市で「2024 全国鳴砂サミット in たざわこ」が開催され、理事長、事務局長、職員が出席した。前日には参加団体とともに現地視察に参加し、サミット冒頭では理事長が挨拶を行った。

6. 団体交流事業

文化財や自然環境の保護・保全を目的とする各種団体と交流を図り、情報の交換、事業協力を行った。また、国内の諸団体や海外のナショナル・トラストをはじめとする環境保全団体等と交流を行い、情報収集に努めた。

(1) 国内交流事業

① 国内保護団体との連絡連携および情報の交換

ア) 文化財指定庭園保護協議会

6月27日～28日に金沢市で総会が開催され、職員が出席し、情報交換と交流を行った。

イ) 全国町並みゼミ (JNT 協力事業)

10月26日～27日に開催された第47回全国町並みゼミ東京大会に職員が出席した。JNT 協力事業として当日の運営に協力したほか、10月20日に関連企画として開催されたすみだ向島 EXP02024 では、現地の長屋を会場に、「われらが紡ぐ白川郷かややねプロジェクト」(支援事業)の活動紹介として、展示や上映会のほか、茅ほうきづくりワークショップを行った。ワークショップには21人が参加し、当

日参加した白川村役場職員との交流を楽しみながら、白川村の茅に触れる機会を提供した。

ウ) 全国伝統的建造物群保存地区協議会

5月23日～25日に長野県長野市で総会および大会が開催され、職員が出席した。

エ) 歴史的景観都市協議会

11月7日～8日に宮城県多賀城市で大会が開催され、職員が出席した。

② JNT が参加登録を行っている諸団体

(公社)京都市観光協会、(公社)国際観光施設協会、(公社)日本観光振興協会、(一社)日本茅葺き文化協会、(公財)日本交通公社、一水会(観光関係団体懇談会)、京都市内博物館施設連絡協議会、文化財保存全国協議会、文化財指定庭園保護協議会、産業考古学会、鉄道友の会、日本鉄道保存協会、文化遺産信託研究会、全国近代化遺産活用連絡協議会、ヴォーリズ建築文化全国ネットワーク、東京商工会議所

③ その他

ア) (公財) ヒロセ財団の留学生受入れ

事業賛助団体であり団体会員でもある(公財)ヒロセ財団の芸術文化交流事業に協力し、旧大乘院庭園で留学生の受け入れを行った。12月20日に2名の留学生が訪れ、旧大乘院庭園の見学や国際交流を行った。このほか、2024年10月～2025年2月までの期間に合計約20名の留学生が訪れた。

イ) (公財) 日本国際教育支援協会の留学生受入れ

6月23日旧安田楠雄邸庭園において、JNT 団体会員である(公財)日本国際教育支援協会(JEES)主催の留学生を対象としたスタディツアーが開催され、JNT が協力した。当日は JNT や本庭園についての概要説明の後、ボランティアガイドによる館内見学が行われた。その他、館内の清掃体験や留学生が自国の文化財を紹介する懇親会、蓄音機による音楽鑑賞など充実したプログラムで、日本の伝統文化に触れ合う体験を提供した(13名が参加)。

(2) 国際交流事業

① 海外保護団体との連絡連携および情報の交換等、国際交流の推進

本年度も歴史遺産・自然環境の保護・保全を目的とするナショナル・トラスト活動を行う世界各国の各種団体と交流を図り、情報の交換、事業協力を努めた。

②交流を図っている団体

英国ナショナル・トラスト(名誉会員)

米国ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

オーストラリア・ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

ニュージーランド・ナショナルトラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

クイーンエリザベスⅡ世ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

ジョージア州ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

フィジー・ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

バミューダ・ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

7. その他

(1) 事業賛助等の協力要請について

従来の法人に加え、建設や自動車販売関連等幅広い業界などに賛助依頼を行った。

その結果、多くの企業・団体から支援を継続して頂き、新たな協力も得られた。

IV 登記事項、届出・報告・申請事項

1. 登記事項

2024年6月26日

- ・大西 孝夫評議員・蒲生 篤実評議員・黒野 匡彦評議員・高橋 広行評議員・堤 哲評議員・森地 茂評議員の再任、曾我 健評議員・伏屋 和彦評議員の退任、今村 啓一評議員・村尾 信尚評議員の就任(2024年6月17日付)
- ・安富 正文代表理事・銭谷 眞美代表理事の再任、安富 正文理事・銭谷 眞美理事・中村 仁理事・大路 洋司理事・苅谷 勇雅理事・最明 仁理事・榊原 篤理事・柴崎 信三理事・鈴木 雅和理事・羽尾 一郎理事・降幡 賢一理事・廻 洋子理事・森 まゆみ理事の再任、大庭 靖雄理事・小川 孝行理事・喜勢 陽一理事・志村 格理事・美里 隆司理事の退任、蝦名 邦晴理事・田地 朗理事・中川 晴美理事・福本 啓二理事・増原 尚二理事の就任(2024年6月17日付)
- ・今村 正監事・佐藤 栄治監事の再任(2024年6月17日付)

2. 届出・報告・申請事項

2024年6月28日

- ・事業報告等の提出(内閣府)

2024年7月18日

- ・役員変更の届出(内閣府)

2025 年 3 月 28 日

・ 事業計画書等の提出 (内閣府)

参考

アドバイザー名簿 (2025 年 3 月 31 日現在)

アドバイザー	梅崎 壽	東京地下鉄(株) 名誉顧問
アドバイザー	大塚 陸毅	東日本旅客鉄道(株) 顧問
(以上アドバイザー2 名)		

顧問名簿 (2025 年 3 月 31 日現在)

顧問	安藤 隆司	名古屋鉄道(株) 代表取締役会長
顧問	石原 進	九州旅客鉄道(株) 特別顧問
顧問	泉 雅文	四国旅客鉄道(株) 顧問
顧問	大塚 雄二郎	大塚化学(株) 特別相談役
顧問	大橋 洋治	ANA ホールディングス(株) 相談役
顧問	大庭 靖雄	前・(公財)日本ナショナルトラスト理事長
顧問	尾関 宗園	大徳寺大仙院閑栖
顧問	門脇 邦彦	日本空港ビルデング(株) 最高顧問
顧問	金子 慎	東海旅客鉄道(株) 代表取締役会長
顧問	柄澤 康喜	三井住友海上火災保険(株) 常任顧問
顧問	小山 薫堂	放送作家
顧問	島田 修	北海道旅客鉄道(株) 代表取締役会長
顧問	田村 明比古	成田国際空港(株) 代表取締役社長
顧問	都筑 豊	東武鉄道(株) 取締役社長
顧問	原田 一之	京浜急行電鉄(株) 取締役会長
顧問	深澤 祐二	東日本旅客鉄道(株) 取締役会長
顧問	伏見 勝	元・報知新聞社最高顧問
顧問	星野 晃司	小田急電鉄(株) 取締役会長
顧問	真鍋 精志	西日本旅客鉄道(株) 相談役
顧問	MARI CHRISTINE	異文化コミュニケーター
顧問	宮田 亮平	金工作家(前・文化庁長官)
顧問	宮原 博昭	(株)学研ホールディングス代表取締役社長
顧問	村田 光平	元・駐スイス大使
顧問	山村 明義	東京地下鉄(株) 代表取締役社長
(以上顧問 24 名)		

観光資源専門委員名簿（2025 年 3 月 31 日現在）

観光資源専門委員	尼崎 博正	京都芸術大学名誉教授
観光資源専門委員	井手 久登	東京大学名誉教授
観光資源専門委員	河東 義之	小山工業高等専門学校名誉教授
観光資源専門委員	鈴木 邦雄	横浜国立大学名誉教授・元学長
観光資源専門委員	西村 幸夫	東京大学名誉教授
観光資源専門委員	西山 徳明	北海道大学観光学高等研究センター教授
観光資源専門委員	三隅 治雄	東京文化財研究所名誉研究員
観光資源専門委員	本中 眞	(独)国立文化財機構奈良文化財研究所所長

（以上観光資源専門委員 8 名）